

三角測量

〔NO. 1〕(2年)

問A. 次の文は、三角測量の踏査、選点における留意事項を述べたものである。
間違っているものはどれか。

1. 新点は、測量地域内につとめて均等に配置する。
2. 新点においては、見通しのあるすべての既知点方向を観測方向として採用する。
3. 新点は、周囲の見通しがよく、利用しやすく、かつ保存上最適な場所を選ぶ。
4. 新点において、他の新点又は既知点を直接観測できないときは、偏心点を設置する。
5. 既知点を踏査したところ容易に発見できない場合は、後方交会法等により、その点を探してみる。

問B. 三角形ABCの内角 $\angle A$ 、 $\angle B$ 、 $\angle C$ を観測して観測値 A_o 、 B_o 、 C_o を得た。球過量を ε とすると、 $\angle A$ 、 $\angle B$ 、 $\angle C$ の最確値 A 、 B 、 C はどれか。
次の中から選べ。

ただし、 $W = A_o + B_o + C_o - (180^\circ + \varepsilon)$ とし、各観測は等精度で行われたものとする。

1. $A = A_o - W/3$, $B = B_o - W/3$, $C = C_o - W/3$
2. $A = A_o + W/3$, $B = B_o + W/3$, $C = C_o + W/3$
3. $A = A_o - W/6$, $B = B_o - W/6$, $C = C_o - W/6$
4. $A = A_o + W/6$, $B = B_o + W/6$, $C = C_o + W/6$
5. $A = A_o + W/3$, $B = B_o - W/3$, $C = C_o + W/3$

問C. 図1-1に示す三角網において、 $\angle(1)$ から $\angle(8)$ までの水平角観測を行い、表1-1の結果を得た。閉合差の大小が観測の良否に係するものとすればどの角の観測が悪いといえるか。次の中から選べ。

1. (1)または(2)
2. (3)または(4)
3. (5)または(6)

4. (7)または(8) 5. (8)または(1)

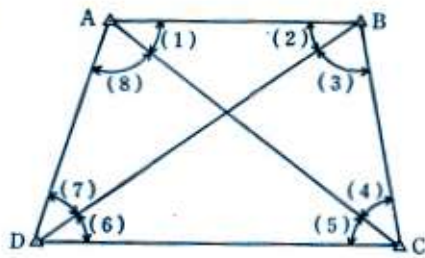


図1-1

表 1-1

三角形	閉合差
ABC	+6"
ACD	+20"
ABD	+18"
BCD	+8"

問D. X点において、Y点を基準方向として、Z点とのきょう角を測定し

118° 22'42" を得た。しかし、Y点の目標は、図1-2に示すようにX点方向から150° 0'の方向に0.20mだけ偏心していた。X点における正しいきょう角はいくらか。次の中から選べ。

ただし、X点、Z点は偏心がないものとし、X点とY点の距離は2,000.00m、 $\rho'' = 2'' \times 10^5$ とする。

1. 118° 22'25" 2. 118° 22' 32" 3. 118° 22'37" 4. 118° 22'52"
5. 118° 22'02"

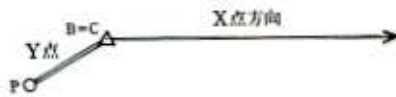


図1-2

補

平成2年（1990年）測量士補試験問題集

多角測量

〔N0.2〕（2年）

問A. 次の文は、光波測距儀による距離測定について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. 気温の測定誤差を1°C、気圧の測定誤差を1mmHgとすれば、測定距離に与える影響は、気温の方が気圧より大きい。
2. 気温、気圧の測定は、大気の屈折率を求めるために行う。
3. 測定距離に対する反射鏡の定数の補正は、測定距離に比例する。
4. 測定誤差には、距離に比例する部分と比例しない部分とがある。

5. 光波測距儀の変調周波数の変化は、測定距離に影響を与える。

問B. 次の文は、光波測距儀による多角測量の現地計算について述べたものである。空欄(イ)～(ニ)に当てはまる正しい組合せはどれか。表2-1の中から選べ。

現地計算は、大きく分けて(イ)計算と(ロ)計算の2つである。(イ)の計算には、測距と測角の際に器械高と目標高が等しくない場合に必要とな

る(ハ)角の補正計算や、偏心がある場合に必要な補正計算が含まれる。

(ロ)の計算は、標高、(ニ)角、座標の閉合差を求め、その結果より現地を離れられるかどうかを判断するための計算である。

表2-1

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
1	観測値に対する補正	座標値の良否の点検	高度	方位
2	座標値に対する補正	観測値の良否の点検	水平	方向
3	座標値に対する補正	座標値の良否の点検	高度	方向
4	観測値に対する補正	観測値の良否の点検	水平	方位
5	観測値に対する補正	観測値の良否の点検	高度	方向

問C. 既知点Aから既知点Bに結合する多角測量を行い、X座標の閉合差+0.15m、Y座標の閉合差+0.20mを得た。この測量の精度を閉合比で表すといくらか。次の中から選べ。ただし、路線長は2,750.00mとする。

1. 1/8,000 2. 1/11,000 3. 1/14,000
4. 1/16,000 5. 1/18,000

問D. 既知点A、B、Cから多角測量により交点Pの座標を求め、表2-2の結果を得た。交点PのX座標の最確値は何mか。次の中から選べ。

1. 1,234.23m
2. 1,234.25m
3. 1,234.27m
4. 1,234.29m
5. 1,234.31m

表2-2

路線	距離	X座標
A→P	2.0 k m	+1,234.24m
A→P	2.5 k m	+1,234.35m
A→P	1.0 k m	+1,234.22m



平成2年(1990年)測量士補試験問題集

水準測量

〔N O. 3〕(2年)

問A. 次の文は、水準測量について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. レベルの主気泡管の感度は、気泡を1日盛(2mm)動かすために傾ける角度で表す。
2. 一般に観測では、出発点に立てた標尺を到着点にも立てる。
3. 水準測量を行って得た高低差に含まれる誤差は、観測距離の平方根に逆比例する。
4. インバール標尺を使用した場合に行う標尺補正量は、観測高低差に比例する。
5. 標尺が傾いたまま観測すると、読定値は大きくなる。

問B. 水準点Aから水準点Bまでの精密水準測量で、標尺補正数を間違って使用して高低差+100.5000mを得た。正しい高低差は何mか。次の中から選べ。ただし、標尺補正数は、表3-1のとおりとする。

1. 100.4970m
2. 100.4980m
3. 100.5020m
4. 100.5030m
5. 100.5050m

表 3-1

正しい標尺補正数	+20 μ m/m
間違って使用した標尺補正数	+50 μ m/m

問C. 既知点A、Bから求点Cの標高を求めるための水準測量を実施し、表3-2の結果を得た。求点Cの標高の最確値は何mか。次の中から選べ。

1. 38.956m
2. 38.964m
3. 38.969m
4. 38.973m
5. 38.977m

表 3-2

区間	既知点標高	距離	観測高低差
A→C	42.472m	3.0 k m	-3.495m
B→C	52.198m	1.8 k m	-13.242m

問D. 次の水準測量の誤差の中で、通常の観測方法では消去又は小さくすることのできないものはどれか。

1. 視準線を含む水平面と気泡管軸を含む水平面とが平行でないために生じる誤差。
2. 地球の曲率によって生じる誤差。
3. 標尺の零目盛の位置が正確でないために生じる誤差。
4. 標尺の目盛間隔が正確でないために生じる誤差。
5. レベルの鉛直軸の傾きによる誤差。

平成2年測量士補 地形測量

〔N O. 4〕(2年)

問A. 次の文は、平板測量について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. 地上と対応する平板上の点を同一鉛直線上にあるようにすることを、致心という。
2. 平板を正しい方位に固定することを、整置という。
3. 交会法において、1点で交わるべき3本の方向線でできる小さな三角形のことを、示誤三角形という。
4. 既知点から求点へ向けて方向線を引き、距離を測定して位置を決定する方法を、放射(光線)法という。
5. 求点から一定の基準となる測線(準拠線)への垂線の長さと、測線上の既知点からその垂線と測線との交点までの距離を測定して、その位置を決定する方法を、支距(オフセット)法という。

問B. 縮尺 1/500 の地形図作成のための平板測量において、基準点に平板を据える際、視準点の図上での転移量を 0.2 mm までとすれば、基準点と垂球のずれはいくらまで許されるか。次の中から選べ。

1. 10mm
2. 20mm
3. 30mm
4. 40mm
5. 50mm

問C. 縮尺 1/1,000 の地形図作成のための平板測量において、基準点Aに平板を標定し、図上 4 cm 離れたB点の標高を求めたとき、アリダードの水準器の気泡が正しい位置より 3 mm ずれていることが分かった。このずれが、B点の標高に影響した量はいくらか。次の中から選べ。

ただし、基準点AとB点の標高はほぼ等しいものとし、水準器の気泡管の曲率半径は 1.5m とする。

1. 8 cm 2. 10 cm 3. 12 cm 4. 14 cm
5. 16 cm

問D. アリダードによるスタジア法において、2点A、B間の距離を測定するために、A点に平板を標定し、B点に鉛直に立てた上下間隔 2 m の目標板を視準して 4.0 分画を得た。2点A、B間の水平距離はいくらか。次の中から選べ。

1. 30m 2. 40m 3. 50m 4. 60m
5. 70m

平成2年測量士補 写真測量
〔N O. 5〕(2年)

問A. 夏期に撮影した縮尺 1/10,000 の空中写真（パンクロマチック）を用いて、次のような判読を行った。明らかに間違っているものはどれか。

1. 丘陵地で階調が明るく、丸みをおびた樹冠を示していたので、広葉樹林と判定した。
2. 谷筋で階調が暗く、とがった樹冠を示していたので、竹林と判定した。
3. 耕地の中に、樹冠が規則正しく碁盤の目のように配列を示していたので、果樹園と判定した。
4. 耕地一面一面が平たんで、おおむね一様なきめや模様を示し、連続した広がりをもっていたので、水田と判定した。
5. 耕地一面ごとに著しく異なった階調を示し、あぜがないので畑と判定した。

問B. 画面距離 15cm、画面の大きさ 23cm×23cm の航空カメラを用いて、平坦な土地の等高度鉛直空中写真を撮影した。この密着空中写真上で、主点基線長を測定したところ 90mm であった。隣接写真との重複度（オーバーラップ）はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。

1. 55% 2. 58% 3. 61% 4. 64% 5. 67%

問C. 図5-1は、図化機の標定要素を動かしたときの写真像の動きを示したものである。どの標定要素の操作によるものか。次の中から選べ。

1. κ
2. ϕ
3. ω
4. b_y
5. b_z

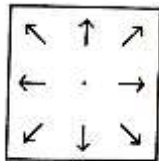


図5-1

問D. 平たんな土地を撮影した鉛直空中写真に、高さ 90m の高塔が写っている。

この高塔の像の先端は、空中写真の鉛直点より 10cm 離れた位置にあり、高塔の像の長さは 5.0mm であった。この空中写真の縮尺はいくらか。次の中から選べ。ただし、航空カメラの画面距離は 15cm とする。

1. 1/6,000
2. 1/8,000
3. 1/10,000
4. 1/12,000
5. 1/14,000



平成2年(1990年)測量士補試験問題集

地図編集

〔N O. 6〕(2年)

問A. 次の文は、ユニバーサル横メルカトル図法(U T M図法)について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. 地球を6度の経度帯に分け、この経度帯ごとに投影する図法である。
2. 適用範囲は、南緯、北緯とも80度以下である。
3. 中央経線と赤道との交点の横座標の値は500kmである。
4. 中央経線上の縮尺係数を0.9996として、中央経線から東西それぞれ約180km離れた所で1.0000となる。
5. 経線は直線で投影され、赤道から離れるにしたがって経線間が狭くなる。

問B. 図6-1は、国土地理院発行の1/25,000地形図の一部である。この地層

図を読図することにより次の結果を得た。間違っているものはどれか。

- 1. 鉄道は、JR線の単線である。
- 2. 耕地の大部分は、田及び桑畑である。
- 3. 営林署の南東にある山の斜面には、墓地がある。
- 4. 市役所と裁判所の各建物の中心を結んだ直線距離は、約1kmである。
- 5. 最も高い地点の標高は、約210mである。

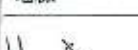

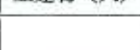
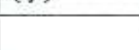



図6-1 (原寸大・一部改変)

問C. 図6-1の上で、消防署、変電所、税務署、高等学校の各建物の中心を結んだ四辺形の面積はいくらか。最も近いものを次の中から選べ。

1. 0.4km^2	2. 0.8km^2	3. 1.2km^2
4. 2.6km^2	5. 3.5km^2	

問D. 図6-2は、国土地理院発行の1/50,000地形図において、各種の表現事項が重複する場合の表示法を示したものである。間違っているものはどれか、1～5の中から選べ。

1	2	3	4	5
幅員 3.0m 以上の道路と送電線	幅員 3.0m 以上の道路と索道	幅員 3.0m 以上の道路と独立建物 (大)	独立建物(大) と擁壁・護岸(小)	境界と擁壁・ 護岸 (大)
				

補

平成2年(1990年)測量士補試験問題集

応用測量

[N 0.7] (2年)

問A. 次の文は、単曲線の各要素について述べたものである。間違っているものはどれか。

ただし、単曲線各部の記号は図7-1のとおりである。

1. 中央縦距 (SM) は、半径 (R) と交角 (I.A) より求めることができる。
2. 交点 (V) に杭を設置できない場合、C点及びD点を設けるが、このとき、角 α 、角 β 、CDより接線長 (AV又はBV) を求めることができる。
3. 長弦 (AB) は、交角 (I. A) と曲線長 (ASB) より求めることができる。
4. 偏角 (δ) は、接線長 (AV又はBV)、弦長 (Z) と交角 (I.A) より求めることができる。
5. 外線長 (VS) は、半径 (R) と交角 (I.A) より求めることができる。

問B. 図7-2の単曲線において、A点にトランシットを据えて偏角弦長法により中心杭を設置することとした。R=300m、AP1=20mの場合の偏角 $\delta 1$ はいくらか。

1. 1° 55'
2. 2° 52'
3. 3° 49'
4. 5° 33'
5. 7° 27'



1. 水準基標等の高さの決定にあたっては、東京湾平均海面を基準面としている河川と、特定の基準面を採用している河川がある。
2. 対応する兩岸の距離標を結ぶ直線は、河心と直交する。
3. 深淺測量とは、水深を測り、流水部分の縦断面を求める測量をいう。
4. 右岸とは、下流に向かって右側の岸をいう。
5. 縦断面図の高さを表す縦の縮尺は、 $1/100 \sim 1/200$ 、距離を表す横の縮尺は、 $1/1,000 \sim 1/10,000$ が標準である。

1.	1.93m
2.	2.33m
3.	2.87m
4.	2.95m
5.	3.53m

測点	N o .1	N o .2	N o .3	N o .4	N o .5	N o .6
距離 (m)	0	20	40	60	80	100
地盤高 (m)	81.05	80.02	82.07	83.90	84.60	85.00

